

神戸の文化を

どうするか

盛り上っている文化への世論

きょうは大変お忙しいなかをわざわざご出席くださいます、ありがとうございます。

きょうは、『神戸の文化をどうするか』というテーマで、いろいろご意見をおきかせいただきたいのですが、よく神戸は文化不毛の地などといわれて、こういう定評ができあがってしまっているということは、私どもとしては大変に残念なことであるわけです。最近美術館建設への要望をはじめとして、神戸の文化をなんとかしなくてはならないというムードが、相当はつきりと生れてきている、こういう気運はやはりみんな育てていくべきだと思います。そこで

きょうは神戸の文化界で、盛んに活動しておられる皆さんから、『神戸の文化をどうするか』という問題をめぐって、具体的なご意見をおききたいと思うわけです。

君本 実は先だって、私の関係している市民同友会で、美術館問題について、識者の方々のご意向を知りたいと思ひまして、50人くらいの方々にアンケートを出したんです。回答率も非常によくて、約 $\frac{2}{3}$ くらいが戻ってきた。その結果を整理しますとね、是非必要だという人が $\frac{3}{4}$ 以上あるんですね。また、県衛生部のあとを美術館に、という案についても、ほぼ $\frac{3}{4}$ の人がそれでもいいというふうに答えておられるわけで、一部に慎重論を唱える人もありますが、美術館

出席者

岡部伊都子

(随筆家)

細川隆一郎

(毎日新聞神戸支局長)

貝原六一

(画家・行動美術)

柴田隆弘

(神戸労音事務局長)

君本昌久

(詩人・神戸市民同友会事務局長)

など不要だという人は一人もおりませんね。だから、とにかく早く『場所』を確保しようという声が一般的になりつつあるという気がする。それは、美術館の理想像から考えれば、県衛生部のあとが必ずしも満足のいくものとはいえないでしょうけど。とにかく、そういう雰囲気の出ていることはまちがいない。ただ、こういう問題は、美術関係の人だけがいくら動いても駄目なんで、それ以外の多勢の人々に加わっていただいて大きな世論を形成していく必要があると思いますね。

貝原 私もだいたいは君本君と同じ意見です。ただ、私はひとつ疑問に思うことがある。つまり、いわゆる文化人という名称は神戸にもあるわけだけど、いったいほんと

に神戸に文化はあるのか、あるいはほんとにみんな文化というものに関心を持っているのかどうか。美術館などいないという人も、実際にはいるわけなんですよ。大阪に行けばまあうじゃないかと……

もうひとつは、こういう美術館建設運動そのものが、どうもブレイキをかけられているようなところがありますね。つまり予算がとれないだろうとか、財界は不景気で駄目なんじゃないかと、そういう先入観のために、運動自体がなんとなく二の足を踏んでるようなところがある。しかし、ものを作るということは、大変に困難な



岡部伊都子さん

ことです。その困難をのりこえてゆくところに、運動における連帯責任の意識も生れてくるのだと思う。

そこでやはり、一般の人の熱意を盛り上げてゆくための方法が考えられなくてはならないと思いますね。そうして活発に動いてゆくべきだ。それでないと、いつまでたっても、いつかやりますなんて返事を聞かされるだけなんです。柴田 以前に労音で、中央公会堂の建設問題について市会議員にアンケートを出したことがある。それによると、だれもが必要性を認

めていたようですね。私の調べたところでは、県立ないしは市立の中央公会堂のないのは、全国で兵庫県と神戸市だけなんです。県立図書館のないのも兵庫県だけです。これは、ほんとに情けない話で、みんなの力で作っていかなくてはならないと思いますね。

『文化不毛』が意味するもの

岡部 今の皆さんのお話をうかがっておりますと、私など自分がないものではない、少しも力になっていないということを感じてしまっているんです……神戸っていう所は、感覚的にいって、文化の



細川隆一郎さん

育ちやすいというか、文化的な雰囲気を持った町だと思いたいですけど、内容的にはまだまだ封建的な意識が残っているような気がしますね。心のなかでね。変な言い方ですけど。私はどこの団体にも入っていないので、連帯意識がないと言われたと、返す言葉もないのですが、それにしても、なかのサークルに入っていないと仲間じゃないみたいと思われたり、言われたりするのには、ちょっと抵抗を感じるので、どのサークルにも入らないことで、かえって自由でありたい、みんなの仲間

でありたい、そんなふうに思っていますね。

それから、神戸の文化的な雰囲気を持っている冷たさでもいいのかしら。なにかしら地域主義にこだわらずにいろいろなところもあると思うんですよ。

細川さんは、神戸にいられてまだ新しいんですが、神戸の文化についてはどういう印象を持っておられますか。

細川 私は神戸に来て、まだ一年ちょっとです。それで、こちらに赴任した当時、よくいろんな人から、神戸には文化がないとか、文化が育たないとか聞かされたものです。しかし、ひと口に文化といってもいろいろあるわけですね。文学、音楽、絵、書道、演劇というふうな。そこで、その各方面の人材をみてみると、ずいぶん立派な人がいるんですよ。小磯良平氏、竹中郁氏、白川渥氏、辻久子氏、朝比奈隆氏、安東聖空氏、とかぞえてくれば、決して人材が不足しているということにはならない。にもかかわらず、文化がないという。これはどういうことかという。結局具体的には、中央の公会堂がないとか、県立美術館がないとか、県立図書館がないとかいうことで、そういう文化の象徴的な建物がないというような形であらわれているわけですね。そういうものがないために、神戸や兵庫県には文化がないという批評も出てくるんじゃないか。だから、建物が欲しかったら建物をたてればいいわけだ。そのための運動はいろいろあるでしょうが、それにマスコミも協力してゆけばいいと思いますね。

これは、文化の本質論を離れるけれども、運動の基本的な方法としては、財界、一般市民の協力、そしてわれわれの税金の還元というところでしょね。財界や県市の当局者にその気になってもらうためには、やはり運動を起さなくてはならぬと思う。

政治・経済・文化全体の レベルアップ

貝原 ただその運動についても問題がないわけじゃないんです。つまり、われわれ絵描きは美術館を欲しいというし、音楽家は音楽ホールをということで、各個別々に



貝原 一朗さん

従来は運動を進めてきた。それでは運動としての力が、どうも弱いという気がするんですよ。だから、今後はそれぞれの運動を統一総合化してゆく必要があるんじゃないか。

細川 兵庫県芸術家連盟のようなものを作ったらどうですか。

貝原 いや、それはちよつと具合が悪い。芸術家だけということになつてしまうと困るんです。みんなが参加できるというふうでない。

細川 なるほど。

貝原 だから、私の考えでは、仮りに美術館を作るにしても、それ

は文化全体のターミナルになるべきだと思ふんですね。運動の推進についても、それと同じことがいえる。総合的な文化協議会を作つて、そこを母体として動いてゆくその上で市長さんや知事さんに頼むという方向にもっていききたいですね。

細川 そうですよ。われわれの税金を、文化施設の建設という方向へ還元しなくてはならぬ。

原口市長は、15年間市長をやつておつて、なんにもやらんじやないですか。橋もいつにかからんじやないか。かかったのならまだしもだが。(笑)文化もやらん



坂田 隆弘さん

し、なんにもやらん。(笑)今まで市長、知事などの行政当局者を市民や県民が動かしえなかったのも悪いが、彼ら自らが文化というものについて考えなかったという事は、当局者の無責任だといふほかないですね。

だいたい、神戸で遅れているのは文化だけじゃない。経済も政治も遅れている。全体的なレベルダウンが起つているというのが、私の見当なんで、だから、文化をよくしようというのであれば、先ず政治、経済のレベルアップが必要になつてくる。私が、経済界の一

なんです。経営者協会、商工会議所、経済同友会というふうに、経済団体がみなバラバラなんです。大阪の財界人が神戸の財界人になにか頼もうと思つても、どこへ話を持っていったらいいのかわからないという事態が、しょっちゅう起つている。経済のレベルアップのためには、どうしても窓口の一本化を実現しなくては駄目だと思ひますよ。その上で知事や市長を洗脳することが必要だ。(笑)

文化に親しむ「場」を

岡部 私は、文化人とか芸術家と



君本 昌久さん

かいう言葉が嫌いなんですけど、文化っていうのは、住民みんながいつしよになつて生活を楽しむことだと思ふんですよ。そういう意味では、神戸の人ほど生活を楽しむたいと願う風風を持った人は少ないんじゃないかと思ふんですが、案外そういう楽しみ方を知らないような気がするんですね。たとえば波止場にでも行つて、みなと一緒に歌をうたつて、そこがそのままステージになるというような……神戸っていう町は、本来そういうことのできる土地だと思ふんです。また、町角でメロディが流れてきたら、そこで立ちどまっ



ネクタイの専門店

元町バザー

神戸×元町 TEL 331401

秋の装い.....

★ハイファッションのあなたのめがね★



伝統の中にも近代的なセンスの光る.....

神戸眼鏡院

元町3・33112-3391443

330551 (貿易部)

てみんなで踊ったり、歌ったりする。そういうふうになつたらなあと思ひますね。

細川 だから、そんなふうになるまでの前提が必要なんですね。つまり、市民が安直に音楽に親しむという機会がないわけです。テレビなど、あんなものは騒音にすぎない。(笑)わざわざ大阪まで出かけて行かなくても、神戸で安直に音楽が聞けて親しめるような場所を、先ず作っていかなくてはならない。海員会館とか繊維会館とかはあっても、演説会には使えるが、音楽会には使えないといわれていますね。

柴田 まともなピアノひとつ置かれていないですよ。

細川 岡部さんのご意見に賛成ですが、音楽をみんで楽しむ気風を生みだしていくためには、そこへいくまでの前提としての「場」が必要ですね。

柴田 いわば拠点ですね。それが出来あがれば、文化はもつと発展していくはずですよ。

細川 国際会館など借りると、大変な費用がかかる。もつと低れんに、安直に音楽会を開き、それをきけるような場所を作るべきでしょう。

貝原 神戸には今約60の美術団体があるんです。そこで、もし美術館ができればそれだけの団体が展覧会を開けるということになるわけですね。そうすると、自然に絵画を鑑賞する人口も増えてくるはずですよ。

ただ、困るのは、絵描きが自分達のためにだけ美術館を作れといつて騒いでいるみたいに思われることです。そんなふうに言われ

ると、どうしても消極的にならざるをえない。これは、大変困る。ほんとは市民のためのものであり県民のためのものなんです。

欲しい横のつながり

君本 最近、文化施設に対する要望が、非常に高まってきたのは、むろんいいことなんですが、こういう傾向の生れてきた過程について反すうしてみますとね、結局こういうことじゃないうかと思うんです。いろんな文化団体があるわけですが、今迄は仲間同志で自分の集団を維持してゆくのにどうしたらいいか、ということでもみんな必死だったんですね。自分達のことだけでかんかんになっていて、他の団体のことまで考える余裕がなかった。それが最近になって、漸くそういう状態から一歩解放されて、他とのつながりを持つとういう気持ちになってきたんじゃないか私にしても、美術館に関心を持つようになったのも、多少の余裕が出てきたからで、今迄は全くの火の車だったですからね。

貝原 たしかに従来は、各々の文化団体との横のつながり、交流が少なかったと思います。詩人とは多少の交流があったけれども、音楽家との交流なんて、全然といつていくくらいなかった。

君本 今、そういう横のつながりを持つとういう時代が、やつとやってきたという気がする。きょうのこの座談会にしても、話が流れ解散してしまふんじゃないって、なんとか実りのあるような方向へ進めていってもらいたいと思うんです。ただ、ウツプンを晴らしたと

ピンク・コーナー



高島夫妻の事件から、こどもを育てるのは別室がいいか、川の字がいいか、むつかし議論になってきたようです。しかし、専門家の意見によると「離乳期にはいれ別室の方がいいのに決まっている。いつまでも赤ん坊にべったりとくっついていたのでは、もし母親がカゼをひいたら、うつされた赤ん坊は肺炎になってしまう。それに精神的離乳がおくれ、やがて依頼心の強い子に育ってしまうだろう」ということになるようです。ところが、けしからぬパパはこう思うでしょう。「どうしても離乳期まで待たねばいけないですねえ。もつと早くなんとかありませんかねえ」

つらつらと考えるのに、欧米の家庭で別室育児法が盛んになったというのには、もちろん赤ちゃんのためだという大義名分があるからでしょうが、それよりも若いパパとママとが、もつと遊びたいというのが本音ではないでしょうか。だから、赤ちゃんのお守りをアルバイトにたのんで、平気で料理店やお芝居見物に出かけます。日本でも赤ちゃんに「お願いがあるの、ときどきはパパとママふたりだけの静かな夜をつくってほしいの」と頼むようになったではありませんか。この事件以来、赤ちゃんにママをとられて、大きな坊やの方まで泣いています。(T)

いうことではつまらない。
細川 神戸市の文化団体に入っている人は、今のくらしいいるんですか？

—約10万人おられますね。

文化運動の核を作ろう

君本 11月3日に県が文化賞を出しますね。私どもも(市民同友会)前にもありましたけど、ブロンズと賞状が出るだけで、金の裏づけでも出すかという、なんにもないんです。これはちょっと困る。

柴田 県の芸術祭についても、問題が多い。今年の芸術祭では、豊岡の体育館で音楽会が開かれる予定になっていますが、とても音楽会をやれるような場所じゃないんですよ。もし、県の当局者が芸術祭を豊岡の体育館に持つていってそれで芸術祭ができると思ってるのだとしたら、これは大変な考えちがいです。結局、さっきも話の出た「場所」の問題が、ここでも出てくるわけですね。たとえば青年団体などでなにかやろうと思っても、ひと晩借りて10万、15万円もかかる国際会館は、とても使えないのです。国際会館の使用料は大阪のフェスティバルホールと並んで全国最高だし、これはもうパブリックホールとはいえませんがどうしても「総合文化センター」が欲しいという声をあちこちで聞きますね。そこで、そういう要望をまとめて、ひとつの大きな運動に盛り上げてゆくための「核」が必要になってくる。

岡部 みんなで少しづつでもお金を集めて、どこかできちんとお世話をしてくださるといいですね。

そして、これだけの人が、こんなに思っているのだということ、知事さんや市長さんをお願いすればいいんじゃないでしょうか。

柴田 実は戦前の話なんです、大倉山がまだ公園だった頃に、市民から200万円の寄附金を集めて公会堂を建て始めたことがあ

る。それが戦争のために中断してしまつて、その時の基金が、今では利子がついて1000万円くらいになっていようです。このお金をなんとか生かしたい、ということ、は、市当局としても道義的な責任を感じているようだし、それを実際に生かすためにはやはりい

ろんな運動をやっていくべきだと思いますね。

細川 兵庫県文化促進連盟でも作つて、やささもさやつたらいいい柴田 今までみんな黙っていたのも悪かったのが。

貝原 私としては、文化団体の総合的な協議会の結成ということを提案したいですね。みなと一緒に行動を開始していい時代が訪れているはずですよ。

柴田 労音の方では、相当の署名も集まっていますから、いつでも動く用意ができていますよ。

君本 それも一年先、二年先といつていたのでは、雲をつかむみたいな話だから、当面貝原さんのいう協議会を作つて、11月3日の文化の日までに、一応の核を準備してみたらどうかと思う。

細川 ともかく政治家なんぞといふのは、情操教育0.1以下の連中ばかりだから、そういう面々の尻を叩いていなくては駄目だよ。(オリエンタルホテルにて)

ピンク・コーナー



高島夫妻の事件は、別室か、川の子かという問題を提起していますが、アメリカではずっと前に「女性の乳房は赤ちゃんのものかそれとも男性のものか」が大きな問題になったことがありました。ことの起こりは、アメリカの母親が母乳で赤ちゃんを育てるのをいやがり、もっぱら牛乳と人工栄養一本で行くようになったからで母乳で育てると、どうしても乳房の形が悪くなるという。ですからこれでは「男性専用」といわれても仕方がありません。そこで「乳房を赤ちゃんに返せ」という運動になったわけです。

もちろんママの胸に抱かれて母乳で育てられるほど赤ちゃんにとつていいことはありません。母牛から引き離された牛の坊やが、バケツのミルクで育っているうちにバケツの音を聞いただけで「ママママ」と鳴き出す。バケツをママだと思っているからでしょう。そんな悲惨なことにならないためには赤ちゃんは母乳で育てるべきでありましょう。なに、もう一人、乳房を欲しがっている。大きな坊やが「がいるって? かまうことはない。赤ちゃんの離乳期まで待たせておくことですか。それでは、アタシも困るのですか。では、中」をとって、昼は赤ちゃんに夜は大きな坊やに……というふうにしただけです。(T)

神戸っ子の オアシス



ローズ クイズ

♥ 二人でお茶を ♥

この写真に撮られたお店の名前とあなたの住所・氏名を官製ハガキに書いて毎月末までに神戸っ子編集室までお送り下さい。20名様に ホワイトローズの二人でコーヒーお楽しみ無料券をさし上げます

ホワイトローズ素人写真コンクール佳作 『夜のホワイトローズ』 宮長進 審査員 小磯良平・竹中郁・白川渥・高橋栄一・高田一郎



食事と珈琲

ホワイトローズ

神戸市生田区北長狭通1(生田新道) ㊿0870

お慶びの日に……

二人の夢を結んだ幸せ
な日。風月堂の香り高
い洋菓子の数々が美し
い思い出を創ります。



風月堂

元町3丁目 TEL 392412~5

ウェディングケー
キ・デコレーショ
ンケーキ・松竹梅
引菓子・紅白饅頭



レストラン
コラル キタノ

TEL. 23-2251



S.I.

道化座15年を迎えて

▼出席者 ▲ 田島 博 (神戸外大教授)

夏目俊二 (劇団道化座)

鳴尾よね子 (劇団道化座)

阿木五郎 (劇団道化座)

岩島道枝 (劇団道化座)

神戸に道化座が誕生した
いきさつ

神戸に道化座ができて、今年でちょうど15年になります。ひと口に15年と言っても、大変なことだと思えます。

きょうは、道化座15年の歩みをふりかえってみて、その間の盛衰記と今後の見通しのようなものをお話したいだきたいと思えます。一同 盛衰記じゃなくて、衰々記ですよ。(笑)

しかし、神戸の劇団としては道化座ひとつしかなくて、神戸の演劇活動に果してきた意味は、非常に大きかったと思うのです。

夏目 どういうものでしょうかねえ。(笑) 他に劇団がないというだけのことで、そんなにホメていたかとちょっと……それに15年間ずっと続けてやってきているのは、厳密に言う阿木君ひとりなんです。

ここで簡単に、道化座誕生のい

きさつについてお話しますとね、実は、以前に同志座という劇団があったんです。これもいつべんに出来たわけではなく、その前には湖畔座、神戸芸術座、神戸芸術劇場という3つの劇団があって、それらがそれぞれの歴史をもちながら仕事をしてきたわけですが、そういう小さな劇団が別々に別れていてもあまり意味がないんじゃないか、それより力を一つに集めた方がいいのではないかというので、昭和22年に、同志座という一つの形にまとまったわけなんです。

ところが、それが思想的な問題などのために、2年ほどで分裂してしまっただけで、そこで、一方は「道化座」他方は「ランプの会」という劇団を作ったわけですが、それがまた一つに集まるとして結局道化座として発足することになった、そういう事情があったんですね。だから、はじめから、いろんな波乱を予想させるような形で歩みはじめたわけで、道化座が15年も続く

だろうなんて、当時誰も考えてなかったんじゃないかと思えますね。

——出発当時は、同好会的な色彩をもっていたと言われておりますが。

夏目 はい。その頃は一般の職場の人たちもたくさんいてこられてしばらくの間は、人数もわりに多かったようですね。いわゆる夜の劇団ということで、はいりやすかったということもありますし、それに当時はまだ、労働もなかった時代で、他に鑑賞の対象がないから、わりあいよく発展することができたとも言えるんじゃないでしょうか。

問題は、職業劇団としての道化座になってからですね。ここから衰々記の時代が始まるということなんです。(笑) 人数も少なくなりましたからね。だから、ここにいる我々は、選ばれたというか、取り残されたというか。(笑)

鳴尾 昼間活動に切り換えたのは

32年だったかしら？
阿木 5周年のあとですね。
夏目 新春座の方に、大量に抜けたあとですよ。

神戸の寺々を転々とした本拠地

阿木 はじめの5年間というのは本拠地はモダン寺にあったんですまあ、当時は上演する会場も少ないし、お金も乏しかったです。モダン寺には地下室がありましてね、そこが稽古場になったわけです。舞台は本堂の演壇で、公演す



田島 博さん



夏目 俊二さん



岩島 道枝さん

る時には、そこに柱をたてたり、カーテンを引いたりして、金ぴかの仏像が光ってるような所でやっただけでした。

夏目 その頃、モダン寺は県の関係の建物で、社会教育会館になっていましたね。地下室がたっぶりあっていて、安く借りられました。

——岩島さんが、道化座におはいいりになったのはいつですか。

岩島 「オセロ」のあとです。33年です。研究所にはいったのは、31年です。

鳴尾 私も33年でした。道化座の公演を見に行ったのは、もっと前からでしたけど。私が最初に見たのは「森の野獣」でした。ちょうどそれが5周年のときでした。岩島 私は「ツウロン港」を見たとき、はじめて道化座を知りました。

夏目 出発当初のメンバーには、谷口完、西山義孝、諸橋行夫、笹山洋一、和島ユキなどがいて、劇団のメンバーはずいぶん多かったですよ。

阿木 「森の野獣」を演った頃には40人以上いましたね。

夏目 だけど今にして思えば道化座は、お寺にばかりいたような気がしますね。

阿木 会下山の積徳会にいたこともあった。

鳴尾 仏教会館とかね。

5周年目に

職業団としての道に進む

——5周年以後の歩みについて、ちょっとお話しただけませんか
夏目 そうですね。その頃ですね演劇を、いわば一種の道楽として

やってゆくか、それとも専門化してゆくかという問題が表面に出てきたのは。つまり、純粹に新劇を守ろうというのと、商業演劇に多少近づいてもいいから、生活的に舞台で食べていける線に持ってゆきたいという考え方ですね。その結果、新春座の方に一度に10数人ぬけるというような事態にもなっていて、道化座は、できるだけ昼間活動を行って、専門化してゆこうということになったわけです。

阿木 27年に民間放送局ができましたね。それから2年、3年してそっちの需要がわりに活発になってきたので、道化座が職業劇団としての道を進むようになったのも、ひとつはそういう外部的な要素も作用していたと思います。夏目 そうですね。ラジオ、テレビなど舞台以外の需要の増大と、劇団の専門化、職業化ということとが結びついていったともいえますね。

ただ、マスコミのなかで、芝居づくりの価値判断みたいなものがひっかきまわされたようなところもありますね。

阿木 子供劇場を始めたのはいつだったかな？

夏目 29年。

阿木 子供劇場も、劇団の専門化を支えてきたひとつの要素だったと思うんですよ。学校で公演したりなんかしてね。それで劇団の運営費を捻出したこともありましたが、劇団が消えないでやってこれたのは、児童劇という支えがあったからですよ。

夏目 そうなんだけれども、それを逆にいうと、子供劇場が多くて忙しすぎて、大人の芝居ができな



阿木 五郎さん



鳴尾 よね子さん

くなつたということもある。ところが、本当にやりたい芝居をやろうとすると、2、3ヶ月は稽古に没頭することになって、たちまち干上ってしまう。それに公演をやったからといって、必ず当たるというメドも立たないし、だからそこに一種の悪循環がくりかえされてきたということですね。だから、私は子供劇場を専門化にいたる、ひとつのプロセスというふうに考えているんですよ。

語るも涙の再建時代

——分裂後の思い出の舞台という
と、どういふのがありますか。
夏目 やはり「オセロー」ですね。
阿木 33年の6月に、新聞会館で
やりました。
夏目 その頃に、シェイクスピア
劇でいこうという線が出てきたん
ですよ。

阿木 「夜の来訪者」(32年11月)も、思い出ふかいですね。再建第1回の公演だったということもあるし。

——劇団員はその当時何人くらいだったのですか。

夏目 それはもう、語るも涙の頃でした。(笑)

鳴尾 7、8人くらい。なにしろ「夜の来訪者」の配役だけで、あと人がいなくなつたんですから。夏目 メンバーを数えるのに、両手の指で足りたくらいです。

阿木 だから、気力で通したという感じですね。だけど「オセロー」の時は、道化座史上最高の観客動員もできました。3千人くらいでした。

鳴尾 「オセロー」のあとが、またガタガタで……

阿木 そうなんです。実はそのあと、「リチャード3世」を上演すべく、上演寸前までいっていただんですよ。大阪公演を産経ホールでやる予定だったんです。それが急に話がつぶれて、中止になったそれでガツクリしてしまつて……

そのあとが、だから第三次再建の時代になるわけですね。とにかくその頃は、ずっとローリング状態が続いたということです。(笑)

鳴尾 私は、芝居が無茶苦茶に好きだから、あんまり辛いと思つたことはないんです。とにかく、はじめのうちは面白い点ばかり見えて、辛いところが見えなかったというものでしょうね。

道化座は養成所かと言われて……

——田島氏出席。
田島 私が道化座の存在を知った

* 道化座思い出の舞台 *



昭和28年に公演されたサルトルの「墓場なき死者」



昭和30年に公演されたウオルフ「森の野獣」



昭和37年公演のブリストリー「夜の来訪者」



昭和38年度大阪府文化祭の奨励賞をうけたシェイクスピア「リヤ王」写真は阿木五郎



昭和39年春公演のモリエール「守銭奴」

のは、2年目の頃ですね。だから私は、道化座とともに歩んできたいちばん古いファンだと思っています。とにかく窮屈ななかで、みんな熱意を持ってがんばってましたね。15年間も続いてきたというのは、これは大変なことですよ。

夏目 ただ、この15年の間に、最初にそろっていたメンバーの間にいろんなへだたりができてしまっただけに、なかなかまとへ集めるというわけにはいかなかったってんですよ。

阿木 つまり、一時道化座が演劇研究所みたいなことになって、少し力がついてくると、すぐ外へ出ていくという傾向がありましたね。鳴尾 道化座は養成所かなんて言われたこともあります。

田島 しかし、それでいいんじゃないんですか。そう閉鎖的にならなくてもいいという気がする。みんながそうやって育っていくのなら、それはそれでいいわけで、新しく入ってくる人もいるんだから。

阿木 ただ新陳代謝が激しすぎて劇団自体が安定しないという点に問題がある。

夏目さんは、道化座にもどられたのはいつですか。

夏目 正式には今年の6月です。それまでは演出とか、衣裳とかの裏の仕事しかできなくて、舞台に出ることはむずかしかった。まあ、道化座にもどるについては、大げさな言い方ですが、自分なりの勇気がいったということは事実ですね。やはり、自分の選んだ責任みたいなものを感じる。自分の気持としては、道化座へもどったというより、自分の芝居をやる上

でまた、自分の生き方を決定する上で、自分なりに道化座をいちばんいいと思って選んだということです。今までの決断がつかないです。だから、自分の生き方についても、道化座についても責任を持ちたい、そういう気持ですね。

ユニークな地についた地方劇団に

田島 しかし、道化座の運営を、ただ公演だけでまかなっていくのはムリなんじゃないですか。公演をやるのと、必ず赤字になるといいうくらいなんですからね。いったいどこでやりくりしているのか、ちょっと不思議な気がする。(笑)

夏目 どうも話が散文的になりまして、結局今いちばん足りないのは、お金なんです。なにかやりたいたい、と思ってもそれを動かせるお金がないんです。

阿木 道化座として、今いちばんなんとかしなくてはならぬのは、経済的な基盤をどうするかということですね。

夏目 高校の移動公演を持ったりしてはいまけど、基本的には個人の犠牲による部分がほとんどなんです。有能な人がいても、劇団でその人を支えられない。外へ流れていくのをどうしようもないのは、ほんとに辛いですね。

田島 たしかに、その経済問題は大きいと思いますが、同時に内容的に問題になるのは、道化座のための脚本作者がいらないということです。これは致命的です。どこかの雑誌にのっていた脚本を使っているとか、中央でやったものの二番せんじをやるというのでは、

地方の演劇運動として、あまり意味がないと思うんですよ。

夏目 今のご意見に対するお答えになるかどうかかわからないですが、実は今度茂木草介さんに道化座のための脚本を書いていただくことになり、来年佐分利信さんの演出で上演する予定になっています。陳舜臣さんにも、はじめての戯曲を書いていただくことになってるんです。

田島 それはいいことですね。

夏目 先生にも早く書いていただきたいですね。

田島 ええ、それは書きますよ。もうひとつ、これは私から言った方がいいと思うのですが、市・県の当局者の関心が、地元で着実に歩みを続けてきた道化座に対して非常に冷たい。そういう態度は、市民の方にもすぐ反映する。だから、労演にしてもなかなかとりあげようとしません。しかるべき人がとりあげたなら、市民の皆さんの認識も、ずっと広がるはずです。兵庫県芸術祭にしても、大阪フェスティバルの二番せんじみたいなことをやるのは、笑止千万ですよ。県は興行師じゃないんだから、欠損覚悟でやってもいいはずです。

阿木 まあ、今年3年目にとつと地元をとりあげようというので、道化座も芸術祭に入り「オセロー」を公演することになりました。

田島 それはよろこばしいことですね。雄県兵庫が知らないけど、東京に対抗したって仕方がないんだね、地元の地盤をまず固めてゆくべきだと思います。

(オリエンタルホテルにて)

神戸っ子の味覚に
ぴったり、又平の早馴れ鮓



神戸三宮生田ノ社ノ西

鮓の又平

電話・三の宮 ㊿ 0935

最高を誇る神戸肉!

鉄板料理定食
650円

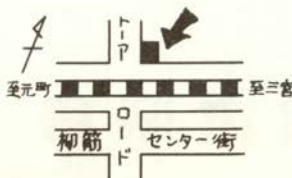
土、日、喫茶

キャンドルタイム



Grill & Tea Room
バター焼 喫茶 candle

きゃんどる



クラス会・30名様

宴会・¥ 650より

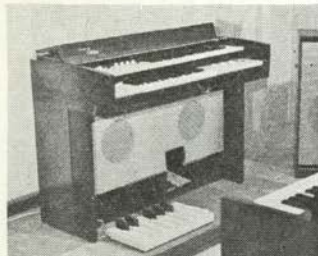
営業時間

PM5.00~AM1.00

神戸三宮トアロード

高架山側東角㊿9991

KOBE ヤマハ ニュース



●ヤマハエレクトーン B-3

表現の巾が広がった本格的2段鍵盤・買いやすい価格・ヤマハエレクトーンB-3はヤマハが技術の粋を集めた《ホームタイプ》の決定版です。

▶新発売◀

2段鍵盤・ベースボックス付 137,000円
椅子 3,000円



●手軽く楽しめる マンドリン

音楽の秋、皆さまに手軽く楽器を楽しめるマンドリンをおすすめします。日本製では、4,200円のものから、また輸入品も種々整っています。

写真は左より
イタリア製カラチエ
68,000円 28,000円
55,000円

●日本楽器のワールド・ジャズ・シリーズ 第2弾10月5日～10月31日

今回は、レーベル別輸入レコード ヴァープ・インパルス（一部）の販売をいたします。輸入ジャズレコードなら県下一を誇る当レコード売場をご利用ください。

☆ヴァープ・レコード
ステレオ 2,100円
モノラル 2,000円
☆インバイ・レコード
ステレオ 2,100円
モノラル 2,000円



神戸もとまち

日本楽器

元町2丁目 TEL 33151代



ご贈答にどうぞ

直輸入羅紗専門店・紳士服・婦人服

シマキ洋服店

神戸店 生田神社東門筋 337950・8055 332597
大阪店 北区梅ヶ枝町92ヤノシゲビル1階 (362) 9515



神戸を楽しむ 私のコース③

内海 元
(ラジオ関西プロデューサー)

神戸びいきの人々にとって神戸の良さはいろいろあるだろうが、その一つは食べもののうまさだという点ではどうやら衆目が一致するようである。時あたかも味覚の季節。

さて、僕の勤め先は神戸も西のはずれ、須磨にある。風光は極めて明媚だが、味覚を満足させてくれる場所となると、そう豊富なかきではない。その中で僕がよく利用するのは、海浜公園の中にあるフィッシング・センターである。ここはその名の通り漁業組合の直営だから、新しい魚が安く食べられるのが嬉しい。

昼食むきには魚のフライに赤だしと御飯がついて百円也というサービスタビ食があるが、そのほか三百円も出せば町なかではなかなか口に入らないようなイキのいい「ハマチ」や「いさぎ」の刺身にありつける。またこれからの季節には、二階の座敷へ上がって魚ちりをつつくという手もあるが、これも一人前五、六百円でOKである。

ここを適当に切りあげて須磨の駅前に出ると、「キャビン」という洋酒喫茶店がある。入ったところは普通の喫茶店だが、奥の玉のれんをくぐるとこじんまりしたスタンド・バーになっている。狭いわりには何となく落ちつけるので夜になると我が社の悪童どもが



「キャビン」のこじんまりしたスタンドコーナー



新鮮な魚料理と魚釣りの楽しめるフィッシング・センター

二、三人はたむろしているのが常である。ここで止り木に止って、二杯三杯とグラスを傾けているうちに、東の方へくり出そうではないかという相談が持ち上る。この夜も相談がまとまった僕とその相棒は勇躍三宮へと出かけることになる。

まず手はじめはセンター街の一

つ南筋にあるやき鳥の「土井」である。鳥となると目がない僕はせっせとヤセの大食いぶりを発揮する。この店独特の超大型の徳利と猪口で酒を楽しみながら、ささ身、きも、砂ずり、ミンチと一通り焼いて貰って二人分の勘定が千五百円見当。いささかホロ酔い気味になったところで今度はセンタ―街を西へブラつき、柳筋の「山田の案山子」をのぞく。ここは各種の串かつが売りもので、それもちよつと変わったものが多い。僕のごひいきはカナツペをフライにしたようなエビパンと、生鮭のカツにタルタンソースをかけたもの。これはいくら満腹の時でも一度は注文する。そのほか好みのものをリクエストして二人で千二、三百円分も食べればまずは串かつにも堪能ということになる。

さてここを出るともう一軒、元町駅前の「壺の蛸」でしめくくりをしなければならない。この店の看板はたこ焼ときょうざと中国風の一品料理だが、日によって変わるつき出しにも主人夫婦の細かい神経が行き届いていて、味自慢の家庭料理の趣きがある。ここでも二人で食べて飲んで勘定が千二、三百円。すっかり月がけげんが家路につく頃には、秋の月はますます冴えわたり、深夜営業禁止の港町はひっそりと眠りにつき始めているという寸法である。

神戸遊戯誌

14



1963年西島レースにのぞんだY19ヨットクラブの面々
写真左より田中(ブルファルコン乗組員) 堀江(マーメイド号)
井上(ボレアス) 合田(ボレアス) 麻生ジョージ 本荘(がやが
や号) 勝呂(ブルファルコン) の各氏

ヨット ③

青木重雄

今日の兵庫県ヨット連盟には二十ばかりの団体が所属しているわけだが、その中の神戸の楽水会とYMCAYヨット・クラブ、さらに阪神間の有力メンバーを会員に持つY19クラブの三団体を対象に、昭和三十年前後から今日へかけてのそれぞれの活動ぶりを拾ってみよう。

終戦後からの楽水会の涙ぐましい再建ぶりは前号で述べたとおりだが、三十二年になると、天神橋のヨット・ハーバーが国鉄の復々線工事のため立ちのきを命じられ、現在の須磨海浜野球場の下へ移転することになった。当時会にはディンギー(一枚セル)三隻とスナイプ(二枚セル)一隻の四隻があったが、どれも手入れがじゅうぶんゆきとどいていて性能がよいことで評判がよく、会員数もこの頃から三十五年へかけては最も多く六十名に達した。女子も二十名ぐらいいいた。三十五年には全会員の協力でクルーザー「楽水」が作られたが、翌年五月事故のためこれれたのを三十七年に再建した。このクルーザーはじめディンギー、スナイプ各二隻計五隻が会の持ち舟だが、会員の方は三十五、六名でサラリーマン、学生、工員などが多く、平均年齢は若く二十五、

六歳というところ。会長は古川精一氏(須磨在住、明石化成K・K専務)だが、会員中にはカルメン歌手として知られている市来崎のり子さんの弟の徳末氏、先年女子ばかり七人でヒマラヤへ登ったグループの一人原欣子さんなども交っている。会の中心となって新入会員の指導に当たっているのは枝光正之氏(大日本電線勤務)、枝光良之氏(三伍証券)の兄弟だが、ともにヨット歴十三年のベテランだけに評判がよい。会費は入会金五百円、会費は男子五千円、女子・学生三千円(年額)。新入会員大歓迎だが、会員の紹介がないとダメ。どこまでも堅実な行き方で、レース出場を第一とせず、あくまで楽しみを目的としているだけに今までに大きな事故を起こしたことがない、というのが関西ヨット界のシニセ楽水会の特色である。

三十四、五年頃から主に阪神間に住むヨットの同好の士が自然と集まってつくられたのが十九フィートのヨットを使うY19クラブである。会員には各クラブのメンバーが多く交っているだけにベテランが多いが、太平洋横断前の堀江青年も有力なメンバーの一人だった。ほかの

現在会員は、合田督（三英物産K・K、慶応出身）鹿島郁夫（先般大西洋横断ヨットに出発した）二位康雄（神戸銀行）塚本修（長瀬産業）長島慶二（チバヤ雑貨店主）山本誠（デザイナー）井上透（スポニチ）山口昭治（セリター街洋服店）各氏といったところ。Y19クラブでは、会員がふえるにつれ、三十六年から選手権大会を開くことになり、今日までに二回行なった（須磨、淡輪間レース）が、第一回優勝はボレアス号（合田、井上両選手）、第二回はチキ号（山本、沼田両選手）だった。なお、優勝者には、元会員のドイツ人D・J・カイリー氏（ダンロップ社長）寄贈のカイリー・カップが渡された。このクラブの特徴として、最近しだいに大型のヨットを使い出した会員のふえたことが目立つ。たとえば、小林博司（小林桂K・K）の甲南号は二十二フィートだし、森本嶺二（森本倉庫取締役）のビーバー二世号はじめ永田敏明（明装看板店主）の明装号、山口、長島両氏のリトルキング二世号、塚本修氏と二位氏の各ヨットなどはいずれも二十五フィートの大型である。なお、会員ではないが神戸K・R・A・Cのドイツ人メル氏のモアナ号は三十二フィートだし、兵庫県によくやってくる森繁久弥のふじやま丸は四百トンの大型であるが、こんどの20号台風で大破し、八千万円のヨットもメチャメチャになってしまった。大変気の毒である。

神戸のヨット・クラブで楽水会と共に忘れてはならないのはYMCAYヨット・クラブだろう。創立は二十九年というアプレ派だが、現在ではヨット数も会員数も楽水会より多い。創立時は二隻だったが、現在ではSクラス（スナイプ）四隻、シールス三隻、シーホース、Lクラス、クルーザー（タリホー号）救難艇（百二十馬力）各一隻計十一隻で、会員数も十五人から六十人（内女子五人）とふえている。平均年齢は二十六歳だが、あらゆる職業の人々の集まりで、市役所、県庁、銀行、各会社のサラリーマン、高校生など多彩である。任意団体なのでYMCAYから予算がもらえず、毎月会費五百円を各人か

ら徴収して維持費に当てている。このほか苦しい財政状態を助けるため、年一、二回大阪でダンスパーティーを開いたり、冬期（ヨットのシーズン・オフ）を利用してスキーバスを出してスキーのうまい会員が指導員や準指導員となりスキー実習を行ったり、スキー映画を催したりして、財源をつくるよう努力している。クラブの運営に関してはYMCAYでは全然タッチしないが、各会員の出資でクラブハウスを建てて（近々、現在の西宮のハウスを防潮堤工事のため移設することになっている）これをYMCAYに寄附している。おかげで維持費だけはYMCAYから出してもらっているが、ヨットの維持費などはむろん会員が負担せねばならず、資金面のやりくりにはいつも頭を悩ましている。新人教育は「トレーニング・カード」というものがあって、新人が入ってくると約二カ月間にわたって（土、日曜日だけ）基本的なトレーニングを実施する。まず、講義、帆走の基礎、結索法、クルーの動作、ヨットマンシップ、クルージング実習、沈艇の処理。以上の訓練が終わると、クラブのシステムでクラス分けがあり、レース、フリーセーリング、クルーザー、救難艇の四つのどれかのポジションにつくわけだ。ヨットのペンキ塗りから掃除、補修、すべて会員の仕事。また、去る六月二十三日甲子園沖のヨット遭難事故を教訓にして救命具を常に身につけることにしている。ヨットから海にとび込むことも心臓マヒ防止のため厳禁している。

YMCAYクラブが何よりも自慢にしているのは、全国のYMCAY中ヨット・クラブのあるのはここだけということだが、世界でもデンマークと日本だけという珍しさだ。西宮ヨット・ハーバーを本拠としているが、騒音の激しい都会に勤めを持っている会員が多いだけに、レースよりも、どちらかといえば静かな海上に憩いを求める人が多い。新人大歓迎というのが本クラブのスローガンである。

神戸うまいもん巡礼

No. 26

赤尾 兜子

どじょう・軽食の巻

どじょう料理は、東京というのが相場である。関西にはその専門店がなくなかったということだけでも、その事情は明らかであろう。

この見目のよくないものが、庶民の口に親しまれたしたのは、元禄のころかららしいが、それは丸煮のどじょう汁であった。開いて卵で閉じたり、蒲焼にするなどの芸を加えたのは、それよりずっと後のことだが、「柳川鍋」という名のおこりは、どじょうを煮た土器の鍋が、慶長年間に、筑後の柳河ではじめて作られた土器、柳河焼であったからだというのはあやまりで、東京でどじょう料理に先鞭をつけた店の屋号が柳川で、それから出たとする方が正しい。

ともかく、味、栄養価はうなぎにおとらず、たん白質脂肪のほかにビタミンAもかなりふくまれている。これどじょうについての今日のカルテである。

その関西ではえがたい唯一のどじょう専門店の「吾作」(生田区元町通二丁目、国鉄元町駅西口前)が神戸にあることは、楽しい。主人は台湾から引揚げて、一時淡路で採鮎の技術者をしていたが、もともと食べ物に興味を持ち、青年時代東京にいて、深川高橋「伊せ喜」など名うてのどじょう店を食べ歩いた。何か食べ物の店を神戸に出したいと三十三年、考えたあげく、関西に一軒もないどじょう屋に目をつけて開いた。

いって、はじめは、そう客がつくはずもなく、随分

と苦労したらしい。

ネタは、川魚問屋の手を通して九州、四国ものをひく酒をのませて昇天させたどじょうを焼いて数尾をイカダのように皿にならべた筏焼(七十円)どじょうすき(百八十円)どじょう汁(四十円)が美味である。酒をのませるのは、骨がやわらかくなる効があるからだ。どじょうすきは東京の「どじょう鍋」のことで、鉄鍋にどじょうとねぎ、豆腐を入れて煮るだけのことだが、しっかり七味唐がらしをかけて食べると、いかにもどじょう独特の風味が舌へくる。「柳川鍋」(百五十円)どじょう鍋(百円)また秋から冬場に向く、胡椒で菜味をきかせた汁に乳麴、白菜、菊菜をあしらった「どじょう麴」(五十円)もあって、多くの人の好みにあわせているのもひとつの苦心のあらわれとみた。

十数人がかけるカウンターの前で、主人が料理する。美しい店ではないが、東京の名うての店でもどじょう店は妙に装飾していない。かえってその方が、フインキを作れるのかもしれない。

たこ焼は、異色ある味覚の戦後版と、私は思う。もともと子供たちのおやつだったが、その雑食を、一応の食べ物らしくしたのは、いわば上方の手柄といってもいいもつとも、大阪や神戸の屋台店でやっているいかがわしいたぐいをいうのではない。

「蛸の壺」(生田区元町一丁目、国鉄元町駅東口前を南へ路地入る)のそれは、推奨できる一品である。

何といっても、たこの生産額、味は全国で兵庫、岡山、広島、順、しかも明石沖はその最大の産地。

蛸壺はかなき夢を夏の月
芭蕉

を持ち出すまでもなく、明石から播州へかけてのたこにまつわる伝説や漁民の漁場争いの歴史はいろいろとある。それほどに民衆と関係が深ければ、たこ焼の代表があってもすこしもおかしくない。

開店して十年。主人の木村憲吾さんは、中国から引揚げたが、もともと食道楽でもあるので、味の研究に余念がない。むしろたこは明石からひく。メリケン粉にかなりぜいたくに卵を加え、タコの一片をあしらって、鉄板で焼きあげ、それが木の台にならんで出てくるが、三つ葉をうかせたうす味の出汁につけて食べると、風味はい



「吾作」のどじょう料理。



写真はありし日の佐藤春夫氏が「蛸の壺」へ訪れた時の店内。

っそう深まる。材料の吟味もさることながら、鉄板にひく油の質がよく、器類を丹波立杭焼一辺倒にしているあたりも、きめがこまかい。百六十円。

ほかに、本場仕込みの、ぎょうざ(百二十円) 焼餅(シャオビイン、五十円) 冷菜(百円) じゃじゃめん(百五十円)といったメニューもあり、中国の庶民調の味も楽しめるという寸法。

カウンターで二十人ばかりの座席、その名は東京あたりまで知れわたっていて、いまは亡き佐藤春夫氏の顔をみたこともあるし、文筆や芸能関係の名士とここでゆきあわせたことも多い。

といって、別にクラブでもないし、夕方には、オフイス帰りのサラリーマンやBGが、たむろしてたこの味を楽しんでいる。